

私の留学体験記

広島県立尾道東高等学校 1年 戸根 寛太 (とね かんた)

留学期間 平成29年12月17日 ~ 平成29年12月30日 (2週間)

留学先 Nottawasaga Pines Secondary School (アンガス, カナダ・オンタリオ)



私は昨年(平成28年)の12月に姉妹校への短期留学に参加しました。私が、この短期留学に参加した理由はいくつかありますが、その中の1つは「自分自身を変えたい」ということでした。

留学の1日目、約12時間かけてトロントまで行き、ホストファミリーと対面しました。トロント国際空港での入国審査のとき、私は緊張していたのですが、添乗員の山下さんに、「笑って!」と言われました。この時、これからいろいろな人に出会うはずだから笑顔で会話することに気をつけないと決めました。この「笑顔」がカナダ滞在中のキーワードとなってきます。

2日目からは姉妹校で英語を学びました。最初は本当に大変でしたが、日を重ねていくうちに、自然と英語のスピーキング力が上がり、私が話したいと思っていることがだんだん伝わっていることを実感できるようになりました。また、昼休みはたくさんの生徒が私のほうに駆け寄り、色々と質問をしてくれて、答えるのは大変でしたが、少しずつ友達ができてとても嬉しかったです。

学校が終わったあとは、ホストファミリーと過ごしました。特に印象に残ったのが、トロントイートンセンターという、ショッピングセンターに行ったことです。トロントイートンセンターは、トロントのショッピングセンターとして有名で、以前から、お土産を買うために行きたいと計画しており、到着したときは、ワクワクしていましたが、ある事件が発生してしまいました。それは、私がクッキーを買おうとしたとき、母のブイさんに、これは高いからだめだといわれたことです。このとき私はさすがに怒りを我慢できず、一気に疲れを感じ、その後は、周辺を散歩しても全く楽しめませんでした。これでは、申し訳ないと葛藤しましたが、気持ちが落ち着きませんでした。これがきっかけなのか、ブイさんは私に暗い印象を持ってしまいました。

その日の夕方、ブイさんから手紙をもらいました。手紙には「あなたが幸せなのか怒っているか分からない」と書かれていました。今まで笑顔を大切にして頑張ってきたつもりなのに、十分に伝わっていなかったことを感じ、私は悲しくなりました。私は、このままではホストファミリーとの生活が暗いまま終わってしまうからとにかく笑顔で接しないと!と自分を奮い立たせました。

クリスマス日には、クリスマスパーティーをしました。お隣の家族といっしょに食事をしたり、ゲームをしながら、楽しい時間を過ごしました。ブイさんは嬉しそうでした。きっと、私の笑顔を見て嬉しくなったのだと思います。

私はこの短期留学で、笑顔で人と接することが大事だということに改めて気づきました。その理由は、なぜ自分自身を変えたいと思ったか、というところにつながってきます。私は以前、今より性格が明るい人間でした。しかし、人間関係などで色々なトラブルが起きてしまい、中学生の時には、ふさぎこんでしまいました。高校に上がって、ふと、ずっとこのままでは、将来の自分に対して不安だし、他人に暗い印象を与えてしまうからだめだ、と思うようになりました。今回、留学の案内をもらって、自分自身を変えられるチャンスだと思ったのです。行く前は自分の笑顔にあまり関心がありませんでした。でも、留学の最終日、ブイさんが私に向かってこう言ったのです、「あなたの笑顔は素敵だよ」と。私は少し泣きそうになりました。そう言われたのは久しぶりだったからです。私は、この時、昔のように笑顔に自信を持っていいんだと思いました。この留学で学んだことを生かしてさらに学習をし、また笑顔で、ホストファミリーに会いに行きたいと思っています。